

# AMPELMANN KAMMERMUSIK

## Soloabend Toru Takahashi

「コントラバスもたまには独りで弾きます」

Ein Kontrabaß spielt selten allein



アンペルマン室内楽 音楽監督 高橋 徹

AMPELMANN Kammermusik Leitung Toru Takahashi



傳通院

アンペルマン室内楽  
ソロコンサート

### Program

Kontrabaß  
高橋 徹  
Toru Takahashi

- |           |                                 |
|-----------|---------------------------------|
| J.S. バッハ  | 無伴奏組曲1番                         |
| D.ドラゴネッティ | 12のワルツ                          |
| 高橋幸代      | Die Berliner Szenen<br>「ベルリン小景」 |

● 6日は18時、7日は17時、「呈茶席」をご用意しています。茶振舞いと生菓子を書院にて頂けます。

2019年4月6日(土)・7日(日)

6日(土)：19時00分 開演(18時00分 開場)

7日(日)：18時00分 開演(17時00分 開場)

会場  無量山 傳通院

自由席チケット：3,000円

(1名様)

※小学生 以下は無料です。

※チケットは数に限りがございます。「限定100席」  
なくなり次第販売終了となります。

お問合せ：傳通院観音堂墓地管理事務所  
(03-3813-5077)まで

受付時間：9:00～16:00

主催：無量山 傳通院

株式会社 彩プロダクツ

協力：AMPELMANN Berlin





アンペルマン室内楽  
ソロコンサート

# AMPELMANN KAMMERMUSIK

## Soloabend Toru Takahashi

「コントラバスもたまには独りで弾きます」

Ein Kontrabaß spielt selten allein

アンペルマン室内楽 音楽監督  
コントラバス

高橋 徹 Toru Takahashi

コントラバス 高橋 徹

1960年江戸初期から神楽坂の左官と大工の家系に生まれ、幼少期よりピアノ、14歳からコントラバスを東京藝術大学名誉教授永島義男氏に師事。カラヤンとベルリンフィル来日の際に弟子入りした首席奏者F.ヴィット氏に薫陶を受けるべくベルリンへ。1980年から今日まで在住。  
1983年、日本人で初めてドイツ国立音大選抜オーケストラ「ユンゲドイチェフィル」に入団、以後1988年まで在籍し13回のツアーに参加。L.マゼール、G.ベルティニー、A.ドラティと枚挙に暇ない十数人のマエストロのもとで首席奏者を務める。初めてのプロオーケストラ出演は1984年にベルリンフィル。ベルリンフィル、ベルリン交響楽団、ハンブルク交響楽団、コンチェルトハウス管弦楽団などで演奏する傍らベルリン室内歌劇場、カンマーフィルハーモニーの首席奏者を経て、現在はコレリリ合奏団、ベルリンオルフェウスアンサンブル、新ポツダム管弦楽団首席奏者。ベルリンドイツ交響楽団には25年以上出演、来日公演にも6回参加した。教会音楽には30数年取り組みベルリンのカトリック本山聖ヘドヴィヒ大聖堂を始め多くの教会でのミサ、礼拝、コンサートで演奏している。  
室内楽を活動のメインと考え、KAMMERENSEMBLE Berlin-Tokio、EnsembleL' estro Armonicoを主宰、また2011年から毎年春と秋にベルリンから室内楽を届けるアンペルマン室内楽シリーズを開催している。  
ベルリン生まれのキャラクターAMPELMANN日本大使を2010年から務めている。



「鷗外の縁で繋がる津和野町、ベルリンミッテ区、文京区」文京区を終の住処とし半生を過ごした森鷗外、軍医としてベルリンに留学中はミッテ区に居住しました。生まれ故郷の津和野町に今も残る生家、ミッテ区の下宿があった建物、団子坂上に鷗外が建てた観潮楼跡に、それぞれ鷗外記念館を有する目独3自治体の友好交流が1年前に始まりました。ミッテ区代表団来日ではミッテ区生まれのアンペルマン信号機が文京区に贈呈されました。そのアンペルマンの名を冠した室内楽コンサートを昨秋シビック小ホールで2公演行いました。その際、無量山傳通院麻生貫主に聴いていただき、この春から傳通院ご本堂でのコンサートが実現します。コンサートは音楽ホールで行う、これは正統なのですがドイツの教会でと同じ様に神社仏閣でも可能ならば行いたいと思ってきました。鷗外の菩提寺津和野永明寺(ようめいじ)がアンペルマン室内楽の日本での始まりでもあります。

アンペルマン室内楽の音楽監督高橋徹は1980年にベルリンに留学しました。留学生として鷗外の後輩にあたります。2011年にサントリーホール・ブルーローズと永明寺で始めたベルリンから音楽を届けるアンペルマン室内楽シリーズも9年目を迎えました。秋に傳通院ご本堂を拝見しコントラバスだけのコンサートをいつかは！と考えておりましたのを実行いたします。  
Ein Kontrabaß spielt selten allen 「コントラバスもたまには独りで弾きます」これはオーケストラでは弦楽器は複数で演奏するのが普通で全ての交響曲はその為に書かれています。独りでの演奏が当たり前なのはピアノくらいです。ましてコントラバスが独りで弾くことは大変に稀ですが、今回はアンサンブルでは縁の下の力持ち、一緒に弾く仲間へ寄り添う役目から「独り」だけの演奏を聴いていただきます。  
チェロのために書かれたバッハの無伴奏組曲1番から始まります。J.S.バッハは音楽の父とも言われるバロック時代の大家、通奏低音という仕事を通して馴染みがありますが、コントラバス用のソロ曲はありません。コントラバスはクラシック時代までチェロと同じ譜面を弾くことが多く、出てくる音はオクターヴ低いのですが、そのまま演奏しては少し低すぎます。でもチェロと同じ音域ですとコントラバスらしくない。楽器にはそれぞれの得意な「鳴る」音域があります。今回はコントラバスに適した五度(音5つ分)低いバージョンで演奏します。鍵盤楽器に多くの作品を残したバッハ、壮大なオルガン曲とは正反対にスッキリ単旋律で荘厳な作品を書いてくれました。煌びやかさではチェロに劣りますが柔らかな響きで大バッハ作品を聴いていただきます。  
ドラゴネッティはコントラバスの名手と伝えられる18世紀のイタリア人です。生まれ故郷のヴェニス大聖堂奏者であり、またロンドンやパリなどに招かれた、当時にしては広い見聞を持っていた音楽家と思います。演奏しますのは独奏曲「12のワルツ」。三拍子のワルツだけで12曲です。しかし弾いてみると調やテンポ、音形やメロディで様々です。旅には驚きと発見がありますが、今の様に簡単に海外に行けたり映像でも見られる時代と違い、パリやロンドンでも、そこへの移動でも、きつと新鮮な感動が多かったのだと推察します。それが作品に溢れています。便利な今とどちらが裕福なのは、わからなくなりました。  
作曲家高橋幸代さんにはBERLIN1920sを始めベルリンをテーマの作品を委嘱してきました。すでに4作品、更にベルリンを題材にアイデア交換を続けてきました。

今回は無伴奏組曲「ベルリン小景」を初演します。

「ベルリン小景」Die Szenen aus Berlin I 花のある窓辺 II 菩提樹の並木を通して III 西陽さまよう教会 IV 佇む記憶 V 湖畔にて  
バッハ(バロック)ドラゴネッティ(クラシック)高橋幸代(現代)の作品を演奏し、合間にコントラバスのご紹介、役目は？コントラバス奏者から見た音楽、オーケストラ話などを挟みながらの60-70分のコンサートにいたします。  
4月の最初の週末、小石川傳通院にお出かけください。開演前には素晴らしい書院にてお茶席をご用意されます。みなさんと傳通院ご本堂で同じ時間を共有するのをとっても楽しみにしております！

2月11日ベルリンにて 高橋 徹



無量山 傳通院

傳通院 観音堂墓地管理事務所

TEL 03-3813-5077 受付時間: 9:00~16:00

〒112-0002 東京都文京区小石川 3-14-6

交通アクセス  
都営地下鉄 大江戸線・三田線 春日駅より 徒歩 10分  
東京メトロ 丸ノ内線 後楽園駅より 徒歩 10分  
東京メトロ 南北線 後楽園駅より 徒歩 10分  
都営バス 傳通院前